新夫婦日記（七）

佐々木邦

「日高君の綽名は御料地といふのです。」

「御料地？　何故でございますの？」

「學校の近所に御料地があつたのです。その御料地に或朝首縊りがあつたと想像して下さい。さうして……慍つちやいけませんよ……その首縊りの背恰好から顏付から目の下のホクロまでが日高君に生寫しだつたといふので、それからは皆が日高君のことを御料地御料地と呼ぶ樣になつたのです。」

「まあ、厭やですわね！　首縊りに生寫しなんて　氣味の悪い！」

「大丈夫だ。僕が首縊りに似てゐたんぢやなくて、首縊りが僕に似てゐたんだから。」

「どつちにしてもあまりぞつとする方だがね。妙さん、他人の空似と申しませうか、全くよく似てゐましたよ。斯う頭を伸ばして、手をぶら下げて、背っ高さを乘らかして……」

「まあ！」

「お舍しなさいよ！　そんな氣狂染みたお顏をなすつて！　往來の人が見て笑つてゐぢやありませんか。」

「何あに、百姓だ。構はない。……目を半分見開いて、この通りの紺飛白を着て、ふはり〜と……」

「お舍しなさいつては！　氣味の悪い！」

「あいたゝゝゝゝ。」

とこんな他愛のない話に打ち興じながら、一行は程なく目的地　着いた。

我々のやうな太平の逸民は自然園にも大勢ゐた。殊にお互の階級と學生が多い。

「時に、清野君　君　アトモスエリック・リフラクションの一實例を見せてやる。こゝから向ふの田圃を見給へ。畑の中の人でも路を歩く馬でも、少くとも二倍の大きさに見ゆるから面白いや。」

と日高君は小高みのベンチを先づ占領して僕を顧みた。

「然うか。しかしアトモスエリック・リフラクションだなんて、君は能く今頃まで物理を憶えてゐるね？」

「實は受賣だ。三三年前にね、僕が此處に坐つて向ふの方の景色を眺めてゐたと假定したまへ。すると畑ゐる人間がヂャイアントのやうに見ゆる。歩いてゐる馬が駱駝のやうに見ゆる。餘り不思議だから、僕は手近にゐた園丁に、おい君、何ういふ譯だらう、彼處の畑の人が馬鹿に大きく見ゆるぢやないかと言つたら、實ト私も今然う思つてゐたところぢやすよ。これはアトモスフエリック・リフラクションの一實例で、空氣のデンシチーが何うとかーて、太陽の光線が斯うとかすゝと、なんて具合で年の寄つた園丁か物理の講義を始めたのには僕も喫驚した。後で聞けば、その男が此處の園主で、札幌出の農學士ださうだ。」

そこへ給仕の女が苺と牛乳を持つて來る。

「早速御馳走になるかな。其方のテーブルへ行かう。」

と一同梨棚の下の圓卓を圍んで苺を潰し始める。

「好いとろね。けれども苺はせ。」

「苺は樂しみなものよ。私、郷里で兄さんと作りましたわ。早く郊外へ新築して苺畑を拵へたいものね。」

と妙子も言ふ。

「日高君、この邊は住宅地としては少し遠過ぎるかね？」

「迚も〜。地所なら又改めて探しに出掛けるさ。」

「しかし大分文化住宅が見ゆる町より高いわ。」

「私も然う思つてゐますの。一寸前五十錢といふ中半分はこの庭代でせうよ。」

「それに器物が悪いわ。尤もこんな金物にしないと破るんでせうね。學生の方が多いから。」

と女同志は細かいことを衝してゐる。

「喉が渴いてゐるから甘いね。町ぢや迚も斯う新しいのは食へない。」

「以前みたいに畑へ入つて取らせやと宜いんだが、この頃ぢや大變來るからね。」

「まあ、以前は畑へ入つて取つたんでかすか？　然うだと面白いんやすけれど。」

と綾子が目を輝す。五十錢で思ひ存分取る氣と見ゆる。

「苺は樂しみなものよ。私、郷里で兄さんと作りましたわ。早く郊外へ新築して苺畑を拵へたいものね。」

と妙子も言ふ。

「日高君、この邊は住宅地としては少し遠過ぎるかね？」

「迚も〜。地所なら又改めて探しに出掛けるさ。」

「しかし大分文化住宅が見ゆる

と僕は立ち上つた時、不關氣がついて、

「や、見給へ。彼處のベンチに大島君が腰を掛けてゐる！」

と二つ三つ向ふのテエブルを指さした。

「成る程、矢つ張りアトモスフエリック・リフラクションを見物してゐるんだらう。昨日の二十三圓のバナマを被つてゐるよ。や、細君同伴だ！」

「一つ驚かしてやらう。」

「待ち給へよ。」

と日高君は差足抜き足で大島君の背後に進み寄り、矢庭に兩手で目かくしをして、

「誰だか中てゝ見給へ。」

「……」

「分らないか？　それぢや謝り給へ。」

「……」

「僕だよ。」

「何を爲さる！」

「やヤッ……」

と日高君は喫驚して飛退つて、

「……これは何うも失禮致しました。全くの人違ひで。」

とあやまざるを得なかつた。斯ういふ失敗は本人には氣の毒だけれども、側で見てゐると眞に腹の皮が撚れる。

Vol. 1　No. 10　THE TAIRIKU　SUPPLEMENT TO THE TAIRIKU NIPPO　1931 December 25th

隔週大陸
（第十號）
大陸日報附錄
編輯人　山崎寧

手が獨占する魅力

御婦人方の御注意までに

メーフエアー美容院　米村幾子

米村幾子さんは滿洲間題ですつかり名をあげた穗積君の夫人で永い間モーラー美容學校で美容術を研究され最近當市ホテルウオールド一〇五號室で開業、新しい美容術で大へんな人氣を呼んでゐます。今後本誌上に於て愛讀者各位の美容についての質問に答へて下さる事になりました。御遠慮なく御質問下さい。責任ある回答を本紙上で發表致します（記者）

手の魅力に就いてお考へになりましたことがございませして？　手と顏は日々の生活のうちに同格の大事な役割を演じてゐますのに、何故手をなほざりにして置いていい理由がございませう。今、私共自身の手を見てみませう。顏に較べて餘りに年をとり過ぎてはゐませんかしら？　私たち家庭の妻は大低の場合、手が私共の年齢を餘りに裏切つて居ります。何故でせう？　それは適當な手入れが出來てゐないからです　ては何故冬向きになると、かう手が荒れて來るのでせうか。それは手の皮膚に最も必要な自然の油性がハウスウオークの爲めに取り去られ、それに氣候が手傳つてこんなに荒れてしまふのです。かうして一日中絶ゑ間なく油性が取り去られてゐますために、それは極く少量ではありますけれども、丁度水の雫の絶ゑまない働きが石をもうがつていくのと同じやうに、次第に手の美と生命とを損ね取り去つていくのです。

手を美しく保つのに必要な條件はけつして複雜なものではございません。手を清潔にして洗ふ度び毎に、ローションをよくすり込んで置くことそれだけです。永くなほざりにしてゐました手は、特別な手當をしてその荒れをとつてしまはねばなりませんが一度その美を取りもどしましたならば、あとは毎日たゞ五六度の極く簡單な手入れだけで結構です。

今日から手の荒れ退治にとりかゝりませう。先づブラシと手袋のお用意を願ひます。ブラシは二吋位でセルロイドの手の付いた適當なのを藥店や十五仙店で賣つて居ります。手袋は指の先きなどに穴のあいた古いので結構です。充分清潔にお洗濯して置きます。今晩御用が濟みましたら溫かなお湯でソープ（普通いゝと認められてゐる洗顏用のでよろしい）とブラシを用ひてお手をよくお洗ひ下さい。爪の間に黑いものをのこして置かない樣に注意いたしませう。きれいになるまで湯の中で手をゆすぎます。それから冷水をサッとかけて下さい。乾いたタオルで充分に水氣を取つてしまひます。お顏の時と同樣にソッとやはらかく拭き下さい。手の皮膚は顏面と同じやうに收縮性を失ひやすくて、ひどく取り扱ひますと皮膚がのびて皺になつてしまひます。次にローションをよくすり込みます。このローションはアーモンドに、パニーの多量に入つてゐるものが荒れを取つてゐるのに一番適してゐる上に皮膚を白くいたします。こちらでは「ハニーエンドアーモンド」や「ジャーゲンスローション」などがいゝと思ひます。どちらも一瓶四十五仙から五十仙位でどこでも求められます。猶はひどく荒れてゐる場合にはキャムフアーアイス（樟腦の中にホワイトワキスとキャスターオイル等を混せたもの。藥店に賣つて居ります）が不思議な効果を表します。これをよく皮膚にすり込んでその上に手袋をはめてお寢み下さい。明朝もお手をお洗ひになつたら後必ずローションをつけます。一日中特にお掃除やお臺所のあとには必ずソープとブラシでゐるまで湯の中でよくお手をお洗ひ下さい。洗つた後手をゆすぐ（前記同樣）ことゝタオルで靜かに拭くことをお忘れになりませんやうに。拭く時にはキューティクル（爪の根本にかぶつてゐる表皮）が爪の上にかぶつてこないやうに根本にもどす氣持でいたします。

極端に荒れ果てゝゐる場合にはこの方法を試みていただきます。鷄卵一個を割りまして白味とはなします。この白味の中に茶匙一ぱいのグリセリンを加へ次に粉にした大麥を適度に加へてなめらかなうすい糊を作ります。これを清潔にした手の上につけまして乾かします。充分に乾きましたならはきれいになるまで湯で洗ひ取りまして水氣を取つた後、スキンフードに類するクリームをよくすり込みましてマッサーヂいたします。若し時間がおありになりましたらこの方法を二日に二度なすつて下さいお忙しい時は夜分になすつてそのまゝ手袋をはめてお寢み下すつてかまひません。手袋がはなれませんやうに手頸の處でよく止めて置きます。

さて最後にもう一つのお願ひがございます。薪やコールをお扱ひの時は必ず仕事用の手袋をお用ひ下さい。餘りに熱いお湯とか又餘りに冷たい水の中に出來るだけ手をお入れにならないやうに、お臺所の石鹼もなるべくアルカリ性の强くないのを用ひません。日々の一寸した事が美容上ほんたうに大切なのでございます。お正月までにはきつとやはらかな手になりませう。もとの美しさにもどりましたら毎日ほんの五六分をお手のためにお用ひ下さい。來年は一年を通して貴女の魅力ある手はいつもあなたのお人柄をしのばせてゐることでございませう。

ベリー鬼探偵の話

ブリンスルバートにて

西風彌三郎

人間の生活線の上に、若し與へられたる神の攝理か、或は運命と呼ぶ事の出來るものがあるとするならば、道の上に柱がつてゐる一つの石にも、結ぶ緣のある事を知るであらう。が然し、若しさうした一切が、徒らなる迷信上の幻影であると云ふのであるならば、こゝに、人の力を以て解決出來ぬ不可思議なる事實の存在がある。

扨て話は一九〇七年九月七日に戻る。太平洋沿岸を水平動で、ゆすぶり動かして來た暴動は、遂に晩香坡に達して、バウエル街は、片もない迄にたゝき壞されて仕舞つた然も此の波動は、單にこゝを最終地點とせずして、遠くブリンス・ルバート迄及ぼして來た。丁度此の頃、ブリンス・ルバートの中心地に近い街に、小さなブレッド屋があつた。田舍町の事であるから、それこそ粗末なもので、然も何から何迄、獨りでやつてゐると云ふ、云へば經濟とは云つて、此の町では愛嬌者として、可なりな評判をとつてゐた。

「お早う」

開けたドアーから、冬の寒い風が吹き込んだ。ベリーはニコッとしかけた口を急にへの字に結んで、

「寒いぢやないか、早くしめてくれよ」

荒々しく斯う云つた。私は度膽を抜かれて、暫らくの間唖然として一度も此の樣な不機嫌に、出會つた事のない、彼の顏を、ヂッと眺めて居たが、ベリーは、それつきり見向きもせず、廣い板の上で、これからオーヴンへ入れるブレッドを丸めて居るのであつた。

「ブレッドを一つ下さい」

十仙銀貨を、ショウケースのグラスの上に出した私は、もう一度怒鳴られるかも知れない、恐怖を感じながら、恐る〳〵云つたのであつた。が然し相變らず彼は、眞赤な顏の筋肉を、膨りさける樣に膨ませながら、粉をねつてゐるのでした。

「ブレッドを一つ下さい」

已むなく私は、自ら自分の聲に驚く程の大きな聲で、儀禮したのであつた。すると彼は、さも忌々しい、と云ふ樣な顏付をして

「オイ！　俺の所にやジャップに賣るブレッドはないんだから、さつさと出て行つてくれ」

斯う云ふのでした。

勞働者の一隊が、何處から集めて來たか空罐を手に〳〵、街から街へとたゝきながら、排日宣傳の行列をしたのは、つい昨夜の事であつた。嵐のあとの靜けさの樣に今朝は、淡く昇つて來た太陽の下で、まだ街は靜かな眠りをむさぼつて居たが、あちらこちらの石垣に、ひらめの樣に吸ひついてゐる紙片を見ると、昨夜の騷ぎが、まだあり〳〵と映るのでした。

私は日本人に特有な憤慨を、心の奥底に感じて、差し出した金に差し出した手の、ふるへるのを見たが、賣らないベリーの顏を、もう一度にらみ返してやる元氣も失つて、こゝを出たのであつた。

年は過ぎ、人は又代る。時代は文化を生み、文化を奪つて行く。社會進化のプロセスにも、禍福の後はあざなわれて行くものである。私達はこの事以來、お互ひ會はねばならぬ街の上で、知らぬ他人となりきつて、交はしてゐた「ハロー」を、不吉なものとして投げすてなくてはならなくなつたのであるが、かくて三年の月日は流れたのである。

興奮は時の經過を待たなくてはならぬものである。二人は當時の強い衝動もいつしか忘れて、お互の胸の中から、その幻影をなくして居たある日、沿岸航路に就いて居たルバート・シテー號のコックの募集の廣告を見て、これに應じ、セコンド・コックとして利用されたのであつた。

白い上衣に、白い頭巾――私は變つた自分の姿に苦笑を感じながら、敎へられた料理臺の上で、銀紙の樣に光つたナイフを取上げたのであつた。

「何うだ、うまく出來るか」

後の聲に、ふり向いた私は、驚きの餘り「あゝ！」斯う云つて彼の手を握つたのであつた。

「あなたはベリーぢやないか」

彼は私の顏を忘れて仕舞つてはいたが、此の小さなボートの中で、自分の名を呼ぶ異國人の顏に頭を傾けながら「忘れたのか」ぶしつけな重ねての質問に「誰だつたかなア」と、更に思ひを過去に走らせて居た彼は

「あなたはルバートで僕にブレッドを賣らなかつたぢやないか」

と說明されて「おゝ！さうだつたなア〳〵」と聲をあげて笑ひながら

「今ならいくらでも賣るよ、君の好きなだけ賣つてやるよ」

と、私の肩をたゝきながら、もう一度朗かに笑ふのであつた。

ルバート・シテー號から下りた彼は、間もなく警察へ入つて探偵になり、それから幾年かの後にはサーヂェント・ベリーとして、鬼探偵とまで呼ばれ、彼の天才は此の幾年の中に遺憾なく發揮されたのであつた。

開拓時代を埋めた幾つかの殺人事件――ルバートを中心にして起つたこれ等の事件は、一つとして彼の手にかゝらざるはなく、然も容易に解決を與へた彼の手腕は、やがて彼をビクトリアに榮轉せしめたのであつたが、惜しい事にこゝに榮轉後間もなく、病魔に犯され、あへなくも一生をビクトリアの海岸近き丘の上に、終らしめなくてはならなかつた。

周圍の狀勢に反抗する事が出來ないで、營てはブレッドを賣らなかつた彼も、探偵としての自由な空氣の中で、彼は日本人にとつても親切な援助者であつた事を、私達は忘れる事が出來ぬであらう。

米國で成功した新しい天才教育法

大人も舌を卷く大論文

天才兒童を如何に敎育するかと云ふことはこれまで到る處で論議されて居りましたが、然し實際に於て日常小學校敎育で執つた敎育法は甚だ不滿足なものでした、ところでアメリカ、ニウヨーク州ロングアイランドのグレト・ネッキ市の中等學校で、その歷史學敎室に初めて試みた優秀兒童の特殊敎育法は非常な成功を收めました、

それは年齡十二歲から十三四歲までの學童百七十三名の內から智能敏の百三十五から百六十九までの二十四人の優秀兒を選拔し、それを十二名づつの二組に分けたのです、そして一組は從來通りのある型にはまつた敎育法を施し他の一組には一般の生徒の學習程度とは飛び切り離れた或る一つの問題を提供しそれをあくまで追求し研究するクラスでした

その二組の結果に於いては後者の方がはるかに驚く可き有効不成績を示して居ります、その內六名の生徒にはいづれも此の程研究論文を出しましたが、內四つは大人も及ばぬ研究的のもので、目下學校の出版部では研究報告書の形式で印刷に附し近く出版することになつて居ります、其題目を試みに列擧しますと

△アメリカ市民に及ぼせるウヰリアム・ハーストの影響

△社會主義が來る可きアメリカ新革命

△現世紀に於ける運動競技史

△歐洲大陸の征服

といつたやうなものです、他の三名の生徒は別の博物學の方を好んで、バード少將の南極に於ける博物學的の研究及び材料の整理といふものでした、で、かうした新しい天才敎育法を施すことに依つて得た基本的な原則をもいふべきものは、過去に對する詳細な研究がやはり現代の問題を解決する上の重要な鍵でありと報告して居ります。

そこでまづ基礎となる學科を終つた後にはそれに必要なる史的探究を試みさせ、その後それ〳〵の材料に就いて批判的研究を遂げさせることが必要であると報告して居ります

未來の夫の顏貌は？

裏口に現はれた雪駄直し

A　B　C

一生を連れ添ふ男はどんな男？未婚の女の誰しもがかうした疑問を頭の何處かに持つてゐる事は爭へない事實であらう。春に目醒めた乙女は乙女らしい憧憬と戰きの裡に……婚期を逸した老孃は、憂惑と悶々心に……。

戀の掛け引情の裏表を知り盡した淫草家業の婦人とて同じである否かうした社會に育つた婦人こそ猶更に力强く絕ち得る一生の夫を求める望みは强い蜜の甘さに寄り集る數多の浮れ男の中から、これぞと思ふ男を選り出さうとすることは、グローブ投手の煙球にバットを打ち當てることより難かしい業かも知れぬ。さてこそ鼠啼き、蟲みゝ算、緣結び、辻占等を果敢なく逢ふ瀨、待ち人のよすがとする。

どんな男が夫になる？未來の夫の顏貌は？

思ひ餘つた女心、遣る瀨なさの憂さ晴らし、古くから行はれ今だに日本の花柳界に廣く行はれる運れる添ふ男の顏を見る法、その幾つかの迷信の中に最も有名な一つ、これには怪奇なローマンスさへ傳へられてゐる。その方法は簡單である。人に見られぬやう、月に一度の障りの折、その汚れを紙に移しそつと陰乾しにする。その紙で作つたカンゼヨリを屋の根も三寸下るといふ丑滿時、顧に持ちこむ。そして心を靜めて火を點し、その灯影に下を覗く……と、その水溜りにポッと浮んだ顏こそは未來の夫の顏なのである。傳へられる物語、伊勢の國松坂の遊女某は、この方法を試みたとある、心氣を澄ませ、恐る〳〵眺めた水溜り鏡に現れた男の顏、躍る胸を押へて一生の大事とぢつと目を据ゑて見詰めれば、モヤッとした影の次第に凝り集まり、やがてハッキリと浮び出たのは？何と日毎この遊里の家々を廻る醜い雪駄直しの顏ではないか、アッと叫んだ遊女が、火の點つたカンゼヨリを下に落した時、ジーッとにぶい音、共に眞の闇、男の顏もフッと消ゑた。半は怖ろしに半ばいま〳〵しさに、女の不機嫌の日が二三日續いた後のことである或日ヒョッコリと此の家の裏口に現はれた例の雪駄直し、見ると顏半面の大火傷である、もとより醜い顏の今は二目と見られぬ物凄さであつたと云ふ。

雪駄直しが答へた言葉

「二三日前の眞夜中でした、夢の中に燃え盛る焰が顏の上へ落ちて來るのを覺えました、アッと思つて目覺めた時からこの火傷、どうしたことやらさつぱり分かりませんし」この返事を朋輩から聞いたその遊女がゾッとしたのは勿論である、この遊女定まる緣とあきらめて果して雪駄直しと夫婦になつたかどうか傳へられてゐぬのは殘念である、然し此の方法が今では花柳界で、裏切られた男の顏に傷を付ける一手段として用ひられるやうに轉化して來てゐると聞いては世の浮れ男たるもの、「暗夜の礫避け難し」なんてノホホンも極めてゐられない。

◆募集

事實を基礎にした移民地でなくては見られぬ、そんな物語を御存じの方は、どし〳〵御投稿を願ひます。原稿は二千四百字內外のもの、原稿用紙でなくても差支ありません。毎月々末迄に『隔週大陸』係宛にお送り下さい。

開拓時代物語

ステヴストンの卷（十）

前述の樣な覺悟と用意とを備へて出かけたのであるが、沖合に於ける第一回の白人見張船との衝突では、日本人側がもろくも逃げて遂に一尾をも漁獲する事が出來なかつた。第二回目の衝突はノース・アームに於てであつた。

此の時は、全く戰爭氣分になつて、白人ユニオンの監視船は、出漁した日本人漁者數名を包圍して長棒を以て毆つて來たのであつた。友を呼ぶ聲、助けを求む叫び、海上は日英語が互に交叉して、凄慘な戰場と化したのであつた。

翌朝卽ち三十四年七月八日の事である。プロビンス紙はオールを持つもの、丸太の棒をさげるもの、長棒をかくし持つものなどあつて、海の上には大古の勇ましい武士の姿があつたと報じて居る。これが武裝した日本人の姿であつた。ステラ號に乘つた警官の一隊、そしてその間にU字を染めた赤旗を、マストの上にかざして居る白人ユニオンの監視船が、凄い沈默で浮んでゐる。

食料にする爲め、許されて出漁して居る白人漁者は、マストに白旗をかゝげて、日本人漁船と區別をつけてゐる。彼等白人漁者の根據地は、フォールス・クリーキであつた。こゝを根據地としては、イングリッシュ・ベー附近からポイント・グレー邊りまで出ては荒し廻つて居たのであつた。

七月十日の夜は來た。暗の中で耳に達した五六發の銃聲に極度の緊張味をみせたアルビオン號は、山崎氏を指揮者として、一同手にピストルを握り、敗名の警官を魚籠の中に隱して出動したのであつた。波は高く、船は木の葉の樣に動搖する。日頃陸上許りを歩いて居るお巡りさんも、アノ大きな體を、小さな籠の中に、もぐり込んで居なくてはならぬ爲めと、加へて船の動搖の爲めに、イザと云ふ時にはずつかり船酔にやられて起つ事さへ出來ないと云ふ樣な始末に笑ひもされず、一同は決死の覺悟にいゝ度胸を見せながら、暗から暗を縫ふて、ポイント・グレーを曲り、イングリッシュ・ベーへとさしかゝつたのであつた。此の時であつた、海岸の砂濱に、難破船らしい黑い姿を認めたのは。

漁船の血痕

砂濱に降りて黑い姿に手をかけた一同は、期せずして『日本人漁船だ』斯う叫んだ。形なき迄に破壞されて居る船の中には、まだ赤々とした生血がたまつて居る。神經を極度に興奮させて居た一行は淡い懷中電燈の光を賴りながら、それは間違ひもない、人間の血である事に一致すると、怒氣天を衝いて、こゝに敵討の覺悟を決めて暗の中の怪物を探ーながらアルビオン號はイングリッシュ・ベーへと進んだのであつた。

フォールス・クリーキの入口へ差しかゝつた時、岸を打つ波の音の間から、どぎれ〳〵に人の聲がきこへ出した。耳をすまして、彼等の話して居る事をきゝれば、それは間違ひもなく、何れかの方面へ出動して、何事かをなさんとしつゝあつた白旗をかゝげたユニオン船であつた。

それッ——急を突かれた白旗の漁船は、抵抗する術もなく、山崎氏は先づ、船よりにやられて居る警官を力づけながら、自らユニオン船に乘り移り、難なく彼等六人を捕虜として自船に移し、更に船を岸につけて、警察へと送つたのであつた。

扨て話は一日前に戻る。

昨日出漁した同胞七名が、今日になつても姿を見せない。斯うなれば噂は噂を生んで、ステヴストンの同胞社會は、一層の騷がしさを加へて行つた。殺されたに相違ない、と云ふ者があれば、鐵砲の音をたしかにきいた、と更にこの說を裏書きするものがある。イヤさうおやない暴風にやられたんだ、と反對說を唱へる者がある。然し何れが事實であるにしても、行衛不明になつて居る事だけは、動かす事の出來ない事實である——この夜運び込まれた英字紙は一切の疑問を解決して、斯う報道して居るのである。

『日本人漁者七名、ユニオンの監視船に捕へられた。彼等は或無名の島に送り込まれて居る』

そして更に同紙は、この監視船の乘組員某の談話として

『日本人漁者七名を捕へたのは事實だ。だが然し彼等が何うされたかは言明出來ない。何れ漁季が終つたなら放免されるであらう』

と附け加へて居るのであつた。團體幹部も、これにはいさゝか弱つた。そして彼等はその談話の次にユニオンからのステートメントとして、にく〳〵しい程の落ち付きを見せながら

ユニオンが捕虜とした日本人漁者七名は別に御心配御無用。彼等には充分の食料を與へてあるだが然し放免するのにはまだ時日があらう

と發表して居るのであつた。

七月十一日の朝の事であつた。デファイアンス號と云ふ小さな曳船が、長いコッグの筏ヤ引きながらポーエン島岸近くを通過しやうとすると、何處からともなく、きゝなれぬ言葉で呼ぶ人の聲を耳にした。船長は不思議に思ひながらも、蒸汽機關の音に邪魔されて判然とその方角を見極める事が出來ず、そのまゝ船を進めつゝある時、更に大聲をたてながら呼ぶ聲をきいた。そこで船をとめて邊りを見廻すと、ポーエン島の岩の上にたつて盛んに手をふりながら助けを求めてゐる七名の日本人の姿を發見したのであつた。

何うして、こんな無人の島に、日本人が漂着したのであらうか、船長は不審を抱きながら、彼等に近づいたのであつた。

開拓時代ナンセンス（三）

叉草

乃公が若い時の事だ、今から考へると馬鹿〳〵しくておかしな事だが——と已に三、四人の大小供のある五十近いジー君が莊面に微笑を浮べて語る

乃公はこれでも若い時は美少年だつたんだと思へ、今から二十五年ばかり前の冬ロッキー山上のエム市は雪が四五呎積んで屋外の仕事は全部無くなつた。小汚い家屋に三三十人ゴロ〳〵して居てストーブの側でお國自慢や腕自慢、唾を抱はケッチンゴロ、ガジ、トランプは勿論、日曜の主なるもので中には中年で相當青ちの好さそふなアイ氏など、一面の銀世界を二階から眺めて『雪の日や……』とか何とか歌句つて外國の雪の情景を故郷の妻君へ手紙を書く俳人も居た。呑んでケッチンから大騷ぎを卷き起し家中を荒れ廻つて、お終ひに町へ飛び出して查公に引張られ、宿屋の亭主が二十五弗持つて請け出しに行かねばならぬ厄介者も居た。

其中で所謂萬緑叢中紅一點と見なした若殿樣のやうなジーは、毎日〳〵雜誌ばかり讀んで居たが、或日ハウス・ウォークの口が出た其注文がヤング・ニート・ボーイと來たから亭主は直にジーを指名した。ジーは未だ一度も白人の家庭に入つた事は無かつた。勿論日本から來て三ヶ月ばかり鐵道に働いたつきりで仕事にアブレたのであるから、英語が出來ない事も當然だつた。併し彼れは宿屋で馬鹿げた、下等な話しばかり聞いて居るよりも、英語でも習へると思つて二の返事で行く事にした。

翌朝彼れは身裝をチャンと整へて、亭主の後について雪の中を主家へと辿り付いた。奥さんはジーを見て、ナイスボーイだと言つた彼れの仕事は雪除けや薪割りや掃除が主であつた。主人は朝出て夕方歸る商店員らしかつた。其家には十七、八の娘が居た。彼女はジミー〳〵と言つて大層親切にして呉れた。

何でもおいしい物があると、ジミーに少しづつ呉れた。ジミーなる者二十歲の紅顏の美少年を以て他人も免し自らも任じて居る彼れ心中必ずや三千世界の幸福を一人で感じたに相違無く、否只今其昔の美男子——髮面のジー君が自白して居るのだ——斷つて置くがジー君の言ふにはヤンキー娘は頗る表情が多過ぎるさうだ。心で熱三十九度强になつて居てもパッと顏だけは、赤らめる日本娘の事しか知らぬ彼れは、無條件で此のヤンキー娘の戀人氣取りになつて居た。併し戀を月下不合雪中に語らふ可く全くの啞であつた彼れは、どんなにかジレッタかつた事であらう、娘は一生懸命手取足取りして、ジミーに英語を敎へて呉れた、彼れは燃ゆる戀の超努力に依つて、日々に英語を覺える其進歩の著しいので娘の先生一層熱心にやつて呉れる。

無難で二週間位は過ぎた。或朝奥さんが言ふにはジミー湯をウンと沸してこれでかうするんだとワシタップとタオルを持つて來てケッチンへ置いた。ジミーは兎も角ストーブの上へ一杯にバンを並べて湯を沸かしたが、其れからどうするのか判然しなかつた。洗濯しては何も持つて來ないと思案してゐると娘が來て何かしきりに嬉しさうにユーとミーと何とかペチャクチャしやべつて置いて二階へ去つた、ジミーは考へた、先達てミスの買物のお伴をした事がある、今日もユーとミーと買物に行く、彼女が腕をくりして掃く眞似をしたのは、お前は風呂に入つてコケを落して來いと言ふのだナ、成る程ジミーは去る日曜日に蔵入りして入浴した丈けである。入浴せよと言ふのに違ひ無いと合點した彼は、ケッチンのストーブの側の暖かい處にタップを置いて湯を入れ自らはチェヤーの上に脫衣を置き將に最後の越中褌を取らんとする一刹那、彼れの背後に當つて悲鳴が起つたと同時に荒々しくドアを締める音がした。併し彼は裸體が惡いと言ふ法律があるとは敎へられて居ない、其聲は將さに娘の悲鳴であつた、何事か、彼女の身邊に起つたのかもしれぬ、忠誠を勵むは此時ゾと思つて身近の薪を一本オッ取り、越中褌姿凛々しくバーラーへ押し出した處、娘は母と頻りにジミーの話しをして居る此のスパタ式の勇士を見るや二人共悲鳴を擧げて二階に飛び上つた。ハハア曲者は二階だなと階子段を四飛びに飛び上つた。アラ不思議娘のルームのドアーがピシヤリ中からキーをかけたらしい。ジミーには曲者らしい何等の氣配を見出せないのでキーの穴から念の爲めに『ユー、オーライ?』と言つて見た、中から親子が『ジミー、ユ、グラウエー』

折角忠節を擅出んとした彼れは亞然何が何だか分らなくなつたが兎も角悠々とケッチンでお湯を使つて着物を著た處へ宿屋の亭主が迎いに來て『ユーは飛んでもない事をシャガッたそうだ早く歸れ』と出合頭にどなり付けられた。亭主はオカミさんに彼ジミーのした事は惡意で無く、主人思ひの心配から薪を持つて飛び出したんだと繰り返し〳〵說明して居た。實の處其亭主の英語も、ベラ〳〵やつては居るが先方へは充分通じない風だつた、兎も角、ジミーの誠意を娘に披瀝せずにグズ〳〵亭主の後について柳行李の小さいのをかついだジミーは、世にも憐れな失樂園の悲痛な經驗を、自ら此の國の風俗習慣を知らない爲めに卷き起した自らの罪として、雪の中に穴でもあらば消えてしまい度い樣な思ひをした午ら、宿屋に歸つて皆から大笑ひされ越中の守の稱號は俳人アイ氏に依つて奉られた、併しストーブの側で聞いて居るとも彼れ等にも皆大小の差こそあれ斯うした失敗談はあつた、それを面白おかしく語り合つて永い間の雪のロッキーに春陽來復する迄ジミーはハウスウォークの口はあつても行かなかつた。

苦闘十二年の回顧【七】

出征より參政權獲得まで

大正五年十一月十三日
アレキサンダー街二四〇番地
加奈陀日本人義勇團

同胞義勇兵は續々と戰地へ送られて行つた。寒い歐洲の野に、世界人類の幸福の爲めに、戰ひつゝある友を思ふの時に、とゞまつて彼等の後事を見守つて居る人々も默してゐる事が出來ず、大正五年十一月十三日、左の樣な廣告を新聞紙上に掲載して、戰場に於ける彼等の、クリスマスを賑はさうとしたのであつた。

在加同胞に訴ふ

男子一度志を立つ度幾くば身を鴻毛よりも輕んじ砲烟彈雨の裡に馳驅して誓つて皆君の爲めに我等の使命を全ふせむの辭を幾して征途に上りし吾が義勇兵百五十餘名今や西歐の野に已に貴き犧牲を拂ひつゝあり此際に當り之等を慰問するは吾等在留同胞の義務ならずや。

茲に於てか當國に善く在加同胞の同情に訴へ（クリスマス寄贈を乘ねて慰問袋を贈呈し聊か戰苦を慰めんとす各自競ふて應分の御寄贈あらん事を希ふ

尚時機切迫に付至急御寄贈の程相願ひ度今週中なれば個人的寄贈品も一緒めとして送附

同胞義勇兵は續々と戰地へ送られて行つた。寒い歐洲の野に、世界人類の幸福の爲めに、戰ひつゝある友を思ふの時に、とゞまつて彼等の後事を見守つて居る人々も默してゐる事が出來ず、大正五年十一月十三日、左の樣な廣告を新聞紙上に掲載して、戰場に於ける彼等の、クリスマスを賑はさうとしたのであつた。

在加同胞に訴ふ

男子一度志を立つ度幾くば身を鴻毛よりも輕んじ砲烟彈雨の裡に馳驅して誓つて皆君の爲めに我等の使命を全ふせむの辭を幾して征途に上りし吾が義勇兵百五十餘名今や西歐の野に已に貴き犧牲を拂ひつゝあり此際に當り之等を慰問するは吾等在留同胞の義務ならずや。

茲に於てか當國に善く在加同胞の同情に訴へ（クリスマス寄贈を乘ねて慰問袋を贈呈し聊か戰苦を慰めんとす各自競ふて應分の御寄贈あらん事を希ふ

尚時機切迫に付至急御寄贈の程相願ひ度今週中なれば個人的寄贈品も一緒めとして送附

最初の犧牲者

出征した同胞義勇兵の最初の犧牲者は岐阜縣出身志賀貞吉氏であつた。彼は大正五年十月九日フランス戰線カルクレットの野に於て重要なる任務を果したゝ後戰死を遂げたのであつた。此の報に接した日會に於ては義勇團と合同主催の下に、同年十一月十九日佛教々會に於て盛大なる追悼法會ヤ營み故人の靈を慰めたのであつた。

志賀氏は嘗てビクトリアにあつた關係から、同市日本人美以教會に於ても同樣追悼式を執行したが同地のコロニスト紙の如きは故人の歴史を詳細に掲げあらゆる賞讃の辭を列べ故人を頌へたのであつた。

義勇兵後援會設立

歐洲の戰場からは、續々として痛ましい報知があり、日會はこゝに於て日本人義勇兵後援會設立の必要を感じ、各團體代表者を集めて協議會を開いたのが十一月二十五日夜の事であつた。此の會合に於て決定したのは

一、後援會は日本人會附屬として處理する事
二、會計には義勇團會計を加へ日々會計が事務に當ること
三、監査役中に領事館員一名を加ふること
四、實行委員として各團體は代表者を來る三十日會に送つて會長と共に實行方法を協議する事

であつた。

かくて三十日の實行委員會に於ては寄附募集にそなへる事の決定を見十二月十三日左の如き趣意書を發表配布したのであつた。

加奈陀日本人出征義勇兵後援會設立趣意書

歐洲大戰の勃發に際會するや加奈陀又英本國と行動を共にし、國を擧げて國難に殉じつゝあり等しく籍を此の國に連ね其國に衣食するもの實に拱手晏然たるを得べけんや。加奈陀日本人會は茲に見る所あり昨大正四年末邦人義勇團の編成を企畫し加奈陀軍當局の贊成と慫慂とを得て其壯擧を公にせり。壯擧一度び公表せらるゝや義憤の烈士爭つて募りに應じ集まるもの二百を超へたり。先發せるものは已に西歐の荒野に勇戰奮鬪し死傷屢報ぜられ後發せる者今亦已に英本國に在り、請ふ思へ、二百の列士は獨り加奈陀の戰ひに參するの戰士に非ず、已に來り更に來らん人種鬪爭に於ける開士として、民族發展の急先鋒として二樣の意義に其犧牲を捧げつゝあるものなるを。

米加の地由來排日の氣漲る同胞對等の待遇を望んで容れられず米國に於ける歸化權問題は多年の懸案として殘り、當ブリチッシ・コロンビア州に於ける參政權問題亦遂巡決せられず、列士の奮起は正に此の隧壁の突破にあり、加奈陀同胞義勇兵は實務實行の事實と誠意とを善く指示せんとして決然奮起せるものあり、已に對等の責務盡さゞるの日卽ち對等の待遇與へらるべきの時ならずや、而かも當ブリチッシ・コロンビア州に於ける參政權問題の解決は、直に以て米國に於ける歸化權問題に其の一歩を進めしむる所なるを思はざる可からず、健兒已に此の大使命を提げて戰線に立つ、犧牲の發生亦甚だ可らず、其の意氣その犧牲を思ふの時、滿腔の感謝禁ずる能はざるなり。殘留する吾等同胞が其の人に對し其の遺族に對し最善の方策を論じて之れを慰藉し後顧の憂ひなからしむるは此壯擧をして有終の美あらしむと共に其の犧牲に報ゆる所以に非ざるなきか、茲に加奈陀日本人會は、加奈陀日本人出征義勇兵後援會を組織し汎く在米加及び母國各地同胞の赤誠に訴へ應分の寄附を需め以て其の目的の貫徹を期せんとす希くは大方の諸賢、奮つて本會の意の存する所を協議せられん事を

大正五年十二月
加奈陀日本人會內
加奈陀日本人出征義勇兵後援會

米國オレゴン州ポートランド市　央州日本人會
米國加州桑港市　在米日本人會
米國加州ロスアンゼルス市　南加中央日本人會
米國イリノイス州シカゴ市　シカゴ日本人會
米國ワシントン州シアトル市　北米聯絡日本人會
米國布哇ホノルル市　布哇日本人會
母國方面の事務は左記にて處理す
加奈陀日本人會東京支部內
加奈陀日本人出征義勇兵後援會支部
東京牛込區若松町一〇二番地

お待ちかねのクリスマスの話

降誕日は何故廿五日か

野邊地天馬

クリスマスは申す迄もなく、キリスト降誕のお祝ひで、マスとは節（祭又は祝ひ）の意味ですキリストは今から一千九百三十一年前ユダヤの國の都エルサレムから九哩許り距たつたベツレヘムの町で厩の樣な所に呱々の聲を擧げた、と傳へられます。併し、キリストの生れた確實な年月日はいまだ明かになつてをりません。

キリスト降誕の年を西暦紀元第一年と定めて今年は千九百卅一年と一般には稱へられてゐますが學者の說ではキリスト生後四年から西暦は始まつてゐる、と申します卽ち紀元前四年にキリストの降誕があつた譯です。キリストの生月日についても、本當はたゞ寒い時分であつたであらうと丈けで判然としませぬが、では一體何故十二月廿五日がキリスト降誕祭になつたのでせう。キリスト生後百年か、百五十年にキリスト教はローマに渡つて勢力を得始めた時のことです、當時ローマに蠻來から行はれてゐた多神教のお祭りに太陽祭と云ふのがありました、それは恰度冬至が過ぎて、これから日が長くならうと云ふ日、卽ち十二月廿五日を下して擧げられる太陽を祭るお祝ひでした、異教徒は、これを太陽の復活日として讃へ祝つたものですが、キリスト教徒はキリストを精神上の太陽であると見做し、この盛典の日をキリスト降誕日と名附け救世主出現を心から歡ぶクリスマスのお祝ひをするやうになつたのです

ツリーの由來

クリスマスは常緑樹が附物になつてゐて、大抵樅の木が用ひられてゐます、姿のよいと云ふ點もありますが、樅の木を用ふるについては又下い樣な傳說が獨逸に殘つてゐます、今から千年ばかり以前、英國のウヰン、フリードと云ふ偉い人が當貴榮達を捨てゝ、未だ野蠻未開の獨逸へ傳道に行つた時のこと、ある年の十二月ダイバー河からライン河を下らうとして恰度クリスマスに當る日にある大きな森へ來かゝると、圓坐をした土人が會長の子を槌で打ち殺し、樫の木に捧げようとしてゐた、フリードはそれを押し止め、誠の神はキリストの外にはない、と說き、今日こそは神の救ひに主のお生れとなつたクリスマスであるかゝる木は切り倒して、むしろ神の家を建てやうではないかと諭して人々と共に樫の木を切り倒すと、そこに今迄氣がつかなかつた一本の若い樅の木が生えてゐた

サンタ爺さん

クリスマスにはサンタ、クロースのお爺さんがつきものです。サンタ、クロースとは貴族の聖徒ニコラスの名が訛つたものと言はれてゐます、何處の聖徒であつたかは申せませんが、サンタニコラスは情深い聖徒で冬の夜、大きな荷物を持つては窓から施しをして歩きと、物語は語ります

サンタ、クローズが煙突から忍びこむ傳說は、戶締り嚴重な貧家の夜、一體そんなお爺さんが何處から這入つて來て、靴下に贈り物を入れて下つたか、と云ふ、子供の間に對するロマンティックな窮餘の答へから生れたらしく思はれます。又サンタ、クローズの贈り物が靴下に入れられると云ふも、實は明瞭した出所も見當らず子供の生活して他に入れ物のないところから、然も子供の靴下は長くて袋と云ふ聯想のもとに、いつからともなしに傳はり出したとより外考へられません。しかしサンタクローズが煙突を潛つたり、靴下が用ひられるについてはこんな傳說があります——北歐のある町に大層貧乏な貴族が住んでゐて自分の娘を嫁にやることが出來ないので、ストーブの火の消えるのも知らないで思案にあぐんだ揚句、ウトウトと眠つてゐると、兼々この貴族の貧乏を助けたいと思つてゐたサンタ、クローズが、用意の贈り物を屋根の上から煙突の中へ拋り込んだ、すると、贈り物はストーブの前に干してあつたお姫さまの靴の中に轉がり込んだ、貴族は目を覺まし、天の與へだ、と嬉んで、その贈り物を受け、娘を嫁にやる事が出來た——

クリスマスケーキ

バター一パウンド砂糖百匁、乾葡萄百匁、ピーナット百匁、果物のキャデー八九十匁、メリケン粉二百匁、ベーキング・パウダー十五匁、鷄卵八個、牛乳適宜

メリケン粉とベーキング、パウダーと一緒にして、二三度も叮嚀に篩にかけ直して置き、砂糖とバターは鍋に入れて火の側で溶かす段取りにして、果物のキャンデーや乾葡萄を粉の器に入れます、別に鷄卵を割入れるのですが、溶けた砂糖とバターを冷まして玉子を一個宛注意して割入れ乍らクリーム狀にしてしまわねばなりません、次に粉と果物類を移し込んで、牛乳を加へ、適宜のかたさに作つたものをオーブンの丸型のパンか眞四角なのにバターをぬいて、更にパラフィン紙でも敷いた上に平坦にナイフで撫で入れて、三四時間オーブンの中で燒きます。

キャンデイピール

蜜柑三個の外皮の黃色い部分を匙金でおろしてしまひ、一個の蜜柑から四枚に別れる樣に皮を剝いて置きます。砂糖カップ二杯と、水カップ一杯を混ぜ乍ら煮立たせ先きの皮を加へてトロ火で煮續けば皮が透きとおればよろしい。シラップから取出した皮は裏漉の上にでものつけてよく乾かせ、冷めてから極細長いものに切り、砂糖の中で轉がしてパラフィン紙の上で乾かせ二度でも三度でも好きな次け砂糖をまぶして御覽なさい。